

日立物流ソフト、倉庫内人員の最適化新システム

Edited By LogisticsToday On 2017/11/21

日立物流ソフトウェアは21日、人時生産性データから倉庫内作業の人員配置最適化を実現し、作業進捗度に応じた適切な対応を可能にする作業可視化・分析システム [ONEsLOGI/アナリティクス] を、12月1日から販売開始すると発表した。



(以下画像の出所：日立物流ソフトウェア)

システムでは、倉庫管理システムやタブレットを使った作業時間取得ツールなどから取得されたデータで、シミュレーションと分析、作業進捗管理を行う。蓄積された人時生産性データの活用と現場改善のPDCAサイクルにより、物流センター管理者は、高生産性の現場を作ることが可能になる。

導入形態は、オンプレミスとクラウドの2つから選択でき、クラウドであれば短期間、低価格での利用開始が可能となる。クラウドの場合は月額10万円（税別）から利用可能。

作業前:翌日の物量に合わせた最適な人員配置を算出



作業中:経験や勘に頼らない進捗管理で適切な作業管理を実現



作業後:数値を元にした改善と結果の確認。データの蓄積



生産性の安定
生産性の向上

+αの
価値創造

Article printed from Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト : <http://www.logi-today.com>
URL to article : <http://www.logi-today.com/304620>
Copyright © 2019 Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト. All rights reserved.